

地域農林経済学会ニューズレター

The Association for Regional Agricultural and Forestry Economics

2017.9.30 第12号

編集・発行 地域農林経済学会 <http://a-rafe.org/2/0>

【学会事務局】〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社学会部内

TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662 E-mail: arfe@nacos.com

目次

1. 『農林業問題研究』第53巻第3号（第207号）の発刊案内1
 - 1) 目次
 - 2) 編集後記
2. 2017年度近畿支部大会報告2
3. 今年度大会（高知大学）について4

1. 『農林業問題研究』第53巻第3号（第207号）の発刊案内

（*J-STAGE上では、9月30日より閲覧可能の予定。閲覧方法は2頁をご参照ください。）

1) 目次

<研究論文>

農産物ブランドに対する購買行動の規定要因

—『地域ブランド戦略サーベイ 2013（名産品編）』の分析— 八木浩平・菊島良介

<個別報告論文>

スカイツリー周辺地域における飲食店の集客要因分析

近藤莉夏子・大江靖雄

先進酒造好適米産地の維持・発展要因と課題

—兵庫みらい農協を事例として— 鈴木 淳・高田 理

中山間地域の水稲作経営における農地集積の実態と展望

—「峡谷型中山間地域」を事例として— 松岡 淳・間々田理彦・淡野寧彦

バイオメジャーの特許権が北米中西部における農業者の種子利用に与える影響に関する経済的分析

—遺伝子組み換えダイズ種子に着眼して— 岡田ちから

耕作放棄地利用を想定した風力発電の費用と便益の推計

伊藤寛幸・赤堀弘和・澤内大輔・山本康貴

Determinants of Local People's Perception on the Trade-Off between Conservation and Poverty Reduction in Community based Natural Resource Management: A Case Study of Tonle Sap Lake, Cambodia

Vong Rylida

大豆作の生産性と技術効率の収束

—パネル単位根検定による計量的分析— 中川雅嗣

ドイツ農村女性連盟の支部活動に関わる組織管理とガバナンス

伊庭治彦

中国小売業の入店料問題の現状と課題

—食品小売業、食品メーカーにおける実態調査結果を中心に—

左 雯・大島一二

<書評>

並松信久著『農の科学史 —イギリス「所領知」の革新と制度化』

片倉和人

2) 編集後記

今期より本学会誌編集に関わることとなりました。査読者の方々が厳しくも的確な指摘をされることに頭の下がる思いです。さて、昨年の学会の個別報告論文の審査は大詰めですが、間もなく今年度の学会が開催されます。今年度も多くの個別報告論文の投稿があり、その数は昨年度を上回る

と予想されます。学会報告においては多くの研究者の意見を聞き、事前投稿論文から十分に改善して投稿してください。優れた個別報告論文は研究論文として採用される場合もあります。質の高い論文の投稿を期待しています。(K)

オンラインでの本学会誌の閲覧方法

地域農林経済学会のホームページ(<http://a-rafe.org/2/0>)から、「学会誌」→「農林業問題研究 J-STAGE」→「農林業問題研究」または“Journal of Rural Problems”をクリックすると、J-Stageの本誌サイトに飛ぶことができます。(J-STAGEは独立行政法人科学技術振興機構(JST)が構築した「科学技術情報発信・流通総合システム」のサイトです)。

2. 2017 年度近畿支部大会報告

1. はじめに

第 34 地域農林経済学会近畿支部大会が、2017 年 7 月 8 日 (土) 14:00~18:00 に、奈良女子大学において開催された。

今年度の新たな試みとして、若手研究者による個別報告に加えて、地域セッション「アクションリサーチを用いた大学の地域連携を考える」(趣旨説明：青木美紗会員)を開催した。この地域セッションは、昨年度の全国大会において大学の地域貢献と研究とのあり方が議論されたことを念頭に置きつつ、地域連携事業の現状や地域農林業研究における地域連携の可能性と課題について、意見交換の場を提供することを意図して行った。

また、個別報告を英文と和文に分割し、英文報告に関しては座長が報告概要を参加者に述べた

ことから、英語のヒアリングに難のある参加者にとっても議論の内容を理解できる有意義なものとなった。なお、大学・研究機関の研究者や院生など合計 36 名の参加があった。

2. 各セッションの概要

【地域セッション】アクションリサーチを用いた大学の地域連携を考える

第 1 報告：小林那奈子(奈良女子大学)「学生による地域連携活動の実践と展開—奈良県における健康農業を事例として—」では、奈良女子大学の社会人大学生が発案した健康(けんぎょう)農業の定義や耕作放棄地の解消、新しい農の担い手作りという目的および大学内外のフィールドの概要が紹介された。

これに続いて大学フィールドにおける学生約 30 名が参加する野菜の栽培体験や、広陵町において住民が主体となって農地を管理し農作物の産地直売所に販売する活動が紹介された。

最後に、今後は参加観察を続け、活動の更なる発展に寄与したいという意欲と、住民主体型農業の役割や意義について考えを深めたいという展望が示された。

第 2 報告：片上敏喜（日本大学）「アクションリサーチによる食文化観光の実践—大学と NPO の協同を事例として—」では、大学の地域貢献が重視されるというアクションリサーチという手法の背景、地域と大学の連携についての課題、地域社会の課題に対する大学の取り組みが紹介された。

次に、食文化観光「奈良の『食』発見ツアー」についてのアクションリサーチの適用事例が紹介され、消費者と生産者をつなぐコーディネーターとしての大学の役割が強調された。

最後に、『食』発見ツアー実践上の課題として、参加人数を 20 名程度に制限する小規模での観光ツアーにする必要があることや、ツアーの受入れ条件の把握が困難という背景からサーチコストが発生するということが述べられた。

両報告後に、実際に地域連携に携わっている会員から、在籍期間の限られている学生と地域連携活動を継続する方法について意見交換がなされた。地域連携活動と研究の兼ね合いについては、研究方法の開発など残された課題は多く、まだまだ発展途上ではあるが、積極的に取り組む若手研究者の姿勢をうかがうことができた。

【個別報告（英文）】

英文第 1 報告：Ariful Mohammad Islam (Kyoto University), "Assessing the Impact of Improved Rice Technology Adoption on Farmers' Well-being in Rural Bangladesh"では、バングラデシュのデータを用いて、改良品種の導入が大規模農家の所得向上に寄与しているが、小規模農家ではそうになっていないため、技術の普及活動が重要であるという報告が

なされた。

英文第 2 報告：Oula Boupakaly (Kyoto University), "Consumer's Evaluation of Rice Attributes in Laos: an Application of Hedonic Approach"では、ラオスを研究対象とし、コメの品質と価格に関するヘドニック分析結果から、破碎米ではないコメ、非白色のもち米、透明なうるち米、パッケージや香りのあるコメを優先的に流通させるべきとの提言がなされた。

英文第 3 報告：Soe Paing Oo (Nagoya University), "Implementation of Good Agricultural Practices of Rice Cultivation in Myanmar : from the Viewpoint of Agricultural Extension"では、ミャンマーにおける事例から、GAP が導入されず収量が低い水準にとどまっている地域が多いことから、多くのチャネルを通じた普及サービス拡大の必要性が報告された。

【個別報告（和文）】

和文第 1 報告：鈴木淳（兵庫県農業協同組合中央会）「農作業事故の現状と農作業安全の展開方向—兵庫県における死亡事故分析を中心として—」では、農作業事故の要因分析から、改善に取り組む仕組みを生産現場に近い、農業者らの協議体の中に構築することが重要との提言がなされた。

和文第 2 報告：矢野佑樹（千葉大学）・中村哲也（共栄大学）・丸山敦史（千葉大学）「チャット形式の調査による農産物に対する消費者ニーズの解明」では、テキストマイニング手法を適用した植物工場野菜に対するイメージ分析結果が示され、従来よりも費用対効果の高い調査・分析枠組の確立が可能ではないかとの展望が示された。

和文第 3 報告：丸谷昂司（近畿大学）「農福連携における地域循環型農業形成の課題—岡山県「A 社会福祉法人」農業系廃棄物利用を中心に—」では、障害者、福祉施設、農業者、機械メーカーの連携による循環型農業の形成を目的として、資源循環機デモ運転の結果から、残渣回収等の作業

量や農生産物の格外以外の残渣量の把握が課題であるとの報告がなされた。

3. おわりに

地域セッションのテーマ設定や報告者の選定および依頼などについては、開催校である奈良女子大学の青木美紗会員にお世話になった。またご多

用のところ、開会あるいは閉会の挨拶をしていただいた福井清一会長と池上甲一会員、個別報告の座長を担当いただいた山口道利会員、駄田井久会員を始め、支部大会参加者の皆様に厚くお礼申し上げます。

多田 稔 (近畿大学農学部)

4. 今年度大会（高知大学）について

第 67 回地域農林経済学会大会は、2017 年 10 月 27 日（金）から 10 月 29 日（日）に、高知大学（朝倉キャンパス）にて開催されます。詳しくは、地域農林経済学会ホームページの「ホーム」から「第 67 回 地域農林経済学会大会（高知大学）のご案内」をクリックしていただき、PDF ファイルをご覧ください。「ホーム」には、大会案内にくわえて、高知大学までの行き方についての案内もあります。

★編集後記

ニューズレター第 12 号をお届けします。本ニューズレターは、紙媒体による学会誌の廃止にともない、それに代わる会員各位への情報提供と会員相互の交流をめざして開始されました。今号では、『農林業問題研究』最新号の内容目次と近畿支部大会（奈良女子大学）の詳細をお伝えいたします。なお、今年度の研究大会は高知大学にて開催されます。南国土佐はよいところです。食べ物も飲み物も人も、個性豊かで魅力にあふれています。会員諸氏の熱烈的な参加をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

会員相互のよりよいコミュニケーションにむけて、皆さまからのご意見やご要望、ご提案をお待ちしております。組織・広報担当常任理事（秋津元輝 akitsu@kais.kyoto-u.ac.jp、または、中村貴子 taka@kpu.ac.jp）まで、積極的にお知らせ下さい。（M.A.）

会員情報の確認・修正について

オンライン会員管理情報システム（以下、e-naf）を導入後、会員ご自身でオンラインにて登録情報を更新していただくことが出来るようになりました。

昨年 12 月末（新入会の方へは入会時）にお送りしております会員 ID（会員番号）および初回パスワード（仮パスワード）により下記システムにアクセスして頂き、会員情報の確認・修正をお願いいたします。

<https://www.e-naf.jp/ARFE/member/login.php>

地域農林経済学会ニューズレター 第 12 号

発行日：2017 年 9 月 30 日

ARFE Newsletter No. 12

September 30, 2017

発行者：地域農林経済学会常任理事会（組織・広報担当）